

□議員名：吉永 美子

## 1 小中学校等におけるエアコン設置について

論点	エアコンをつけた後、ランニングコストを下げるために万が一にでも、必要なときにエアコンが使用されないことがあってはならない。ランニングコストの試算と予算確保について聞く。
回答	現在、一日も早い設置工事の開始に向け、実施設計の完成に最大限努力している。ランニングコストの試算については、この実施設計の中で行うが、試算結果の報告書はまだほとんど提出されておらず、内容の確認も今後必要なため、その後に予算を確保していく。

論点	L P ガス関係者から請願が出たことにより、いかにランニングコストを下げるのかという点でガスの採用に重きを置くことはあるか。
回答	L P ガス採用の請願が議会で採択されたということなので、請願した関係者と設置が本当に間に合うのかという点で協議をしているが、その協議の結果をもって方式を決定し、工事に取りかかりたいと考えている。

論点	エアコンの運用に差が出ることのないよう、マニュアルの策定が必要ではないか。
回答	各小中学校、幼稚園で統一してエアコンを適正かつ有効に使っていただくとともに、子どもたちや教職員が省エネ、地球環境への配慮等に対する意識を一層高め、行動していただけるよう、運用マニュアルを策定していきたい。

## 2 公共施設の跡地利用について

論点	公共施設跡地をどう活用するのか、全体の課題として捉えた横断的なプロジェクトチームを一日でも早く立ち上げるべきではないか。
回答	現在、市には公用地の跡地活用について、ガイドラインのようなものはない。そこで、今年度中を目途に、跡地活用指針の策定に取りかかっている。全庁的に取り組む組織としては、市長をトップとする市有財産活用検討委員会を想定しているところである。

論点	埴生地域から出ている埴生小学校跡地に関する要望書に関し、石碑の設置はすべきではないか。
回答	過去、市内の公共施設、学校で廃止または移転したものがあるので、そのときの例に倣いたいと考えており、過去の事例を調べているところである。

### 3 住まいる奨励金について

論点	山口東京理科大学定住促進事業として今年度から始まった事業である「住まいる奨励金」のねらいについて聞く。
回答	住まいる奨励金事業は、本市に住民票のある山口東京理科大学の学生に対して、インセンティブとして住まいる奨励金を交付し、本市への定住を促進させるとともに、商業振興を図ることを目的として実施している。

論点	今後の事業展開について聞く。
回答	今年度は、大学院生も含めた全学生を対象にしているが、来年度以降は、本市に住民票のある、または本市に住民票を移動した新入生を対象とする予定にしている。入学前から入学予定者に当事業を積極的にPRしていきたいと考えている。

論点	この事業に協力する店舗が、理科大生が来店したとわかるようにするとともに、学生証の提示で付加価値をつけるようにしてはどうか。
回答	協力店舗において割引制度や粗品の進呈等、理科大生に対して何らかのサービスを行っていただけるようなことを検討していきたいというふうには考えている。

論点	学生がより使いやすく、また協力店もさらに喜ぶという形で、協力店がひと目でわかるアプリの設定について考えを聞く。
回答	アプリはなかなか手続的に、作業的に難しいところもあるが、ホームページをスマホから検索する中で、見ながらということは容易だと思うので、これはすぐに理科大のホームページ等を活用しながら対応していきたい。

#### 4 第7回現代ガラス展について

論点	初めて市外での展示を行ったが、次は県外での展示を行ってほしいと思う。今回の現代ガラス展について、市の総括を聞く。
回答	前回よりやや少ない入場者数ではあるが、高校生以下の入場者数が200人余り増えている。市外の情報発信を目的に、初めて萩市で特別作品展を開催した。市民と市の協働により、本市の特色ある芸術文化の一つである現代ガラス展を市内外で開催したことで、「活力と笑顔あふれるまち」に一步近づいたのではないかと考えている。

論点	2年後には第8回現代ガラス展が開催されるが、次回の構想について聞く。
回答	次回のガラス展においても、サポーター・スポンサー制度の充実による市民との協働を図るとともに、本市のガラス文化を情報発信することは、シティセールスの絶好の機会でもあることから、市外での特別展開催を計画するとともに、さらに全国に向けても発信すべく、県外での開催も視野に入れて取り組みたい。